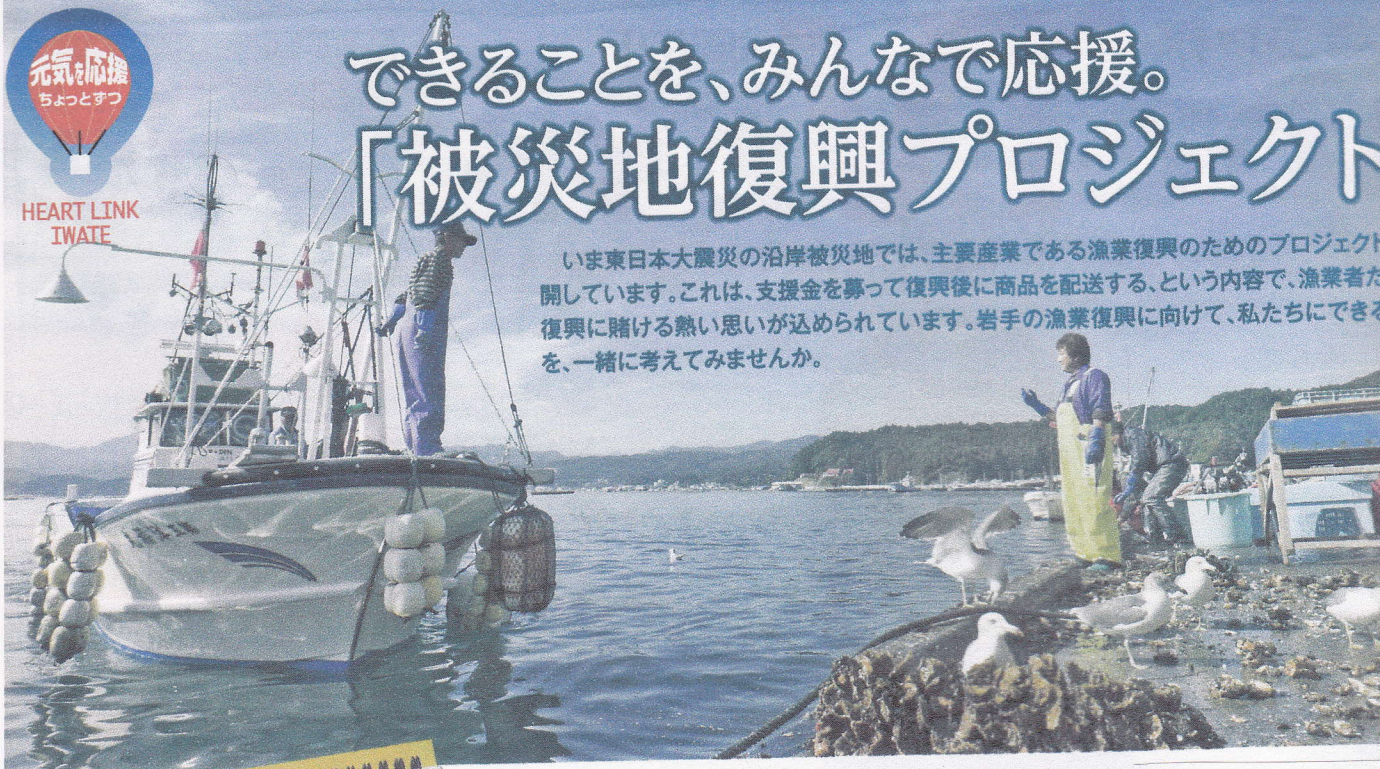


元気の応援
ちよつとずつHEART LINK
IWATE

できることを、みんなで応援。 「被災地復興プロジェクト」

いま東日本大震災の沿岸被災地では、主要産業である漁業復興のためのプロジェクトが展開されています。これは、支援金を募って復興後に商品を配送する、という内容で、漁業者が復興に賭ける熱い思いが込められています。岩手の漁業復興に向けて、私たちにできることを、一緒に考えてみませんか。



1口1万円で牡蠣・ホタテ&
わかめの養殖業者を支援できる!

三陸やまだ漁業協同組合大沢支所の
「牡蠣・ホタテ&わかめ
復興プロジェクト」

山田町は震災前、殻付きカキ(牡蠣)の生産量日本一を誇っていたカキの産地。その中心である大沢地区では、養殖いかだ約1600台のうち約1300台が流されてしまいました。

「養殖いかだも船も家も失った漁業者も多い。それでも、全国的に評価の高い殻付きカキを絶やしてはいけない、という思いから、気力をふり絞り、復興に向けて動き出



牡蠣・ホタテ養殖組合の佐々木功吉組合長(左)と鈴木昌幸さん

したんです」と話すのは、大沢地区の牡蠣・ホタテ養殖組合の組合長・佐々木功吉さんです。

震災後、佐々木組合長も含めた組合員は、がれきの撤去やいかだにつるすロープの補修など復興に向けたさまざまな作業に追われています。幸い残っていたいかだのロープを引き上げると、大粒の殻付きカキが残っていたので、取材日は、それらを出荷するための殻むき作業が行われていました。

「これが残っていたから、未来に向けた種付けもできる。再来年には、また質の良い殻付きカキができると信じています」。

目標は、80人の組合員で1000台の養殖いかだを設置すること。現在それに向けて、いかだを固定する



牡蠣の殻むき作業に精を出す大沢地区の養殖漁業者。残っていたいかだからは、こんなに立派な牡蠣が収穫できました

コンクリートブロックの設置が進められています。

一方、同じ大沢地区のわかめ養殖組合でも支援金を募集しています。わかめの養殖漁業者も現在、復興に向けて種付け作業などに精を出しています。こちらは来年春には、風味の良いわかめが収穫できそうです。



大沢地区のわかめ養殖組合の皆さん

牡蠣・ホタテ復興プロジェクト

●内 容 / 1口1万円

(復興支援+ホタテ20枚)

※牡蠣の収穫は再来年になるため、養殖施設が復旧した来年秋頃にホタテを送付

●受付口数 / 限定200口

●申 込 / 住所・氏名・電話番号・口数を記載したものをFAXで送付。その後、組合から振込先などをお知らせします

●FAX番号 / 0193-82-3053

●問い合わせ / 080-1806-9616
(漁協担当者・細川)

●備 考 / 申込者は追加料金で収穫体験・試食が可能です

わかめ復興プロジェクト

●内 容 / 1口1万円

(復興支援+早採り生わかめ2kg)

※生わかめの収穫は来年早春の予定

●受付口数 / 限定200口

●申 込 / 住所・氏名・電話番号・口数を記載したものをFAXで送付。その後、組合から振込先などをお知らせします

●FAX番号 / 0193-82-6449

●問い合わせ / 090-7668-9959
(組合長・柏谷)